

「宜野湾高校の生徒達へ(27)」で『世界に一つだけの勉強法』（坪田信貴）を取り上げた。同氏は『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』の著者でもあったので、同書に目を通して見た。まず、25歳になったさやかさんの手紙を紹介しよう。

すこし「勉強」というものを始めてみると、自分の何も知らなさ加減に驚きました。あれ、もしかして私この先、このまま子供産んだらやばくないか？何も教えてあげられない...と思いました。と同時に、自分の知らないことを知ってすごく楽しんだなって感動したんです。本を読んでみたら意外におもしろくて、今までの時間が少しもったいなく思えたほどです。政治のことを少し先生に教えてもらった日から、ニュースキャスターが言っていることがほんの少しだけ理解できるようになりました。日本の歴史というマンガを読んだら、国内いろんなところに行ってみたくなりました。私は、めちゃくちゃ損してたんだなって思いました。だから、もっと自分がいる世界を広げたいと思った。

さやかさんの「知らなさ加減」を表している箇所がこちら。

日本史を学習し始めて少しした頃、彼女は僕にこう質問してきたのです。

「センセー、あのさ、この女の子、超かわいそうじゃね？」

彼女の人差し指の先には、「聖徳太子」という見慣れた文字。

「あのさ、なんでかわいそうだと思ったの？」

「だって、この子、きっと超デブだったから、こんな名前つけられたんだよ。

“せいとく たご”（太った子）なんて！」



これを読んだら、「私も何とかなりそう」って、思いませんか？

さて、彼女は「本気」になることについて、

もし慶應に落ちて別の大学に行っても、同じことを思ったと思います。大学受験をして得られたものは、慶應に受かることと同じくらい価値のあるものだったと思うからです。なにも、頑張るそれが「受験」でなくても何でもいいと思います。何かひとつやり遂げることって人生何度でも経験できるものではないし、こんな私でもそれなりにできたんだから、誰でも本気になればなんだってできるよ！！と大声で言いたいです。

「何か死ぬ気で頑張る」って、人生めちゃくちゃ変わるんだなって、体験して改めて思います。人生なんて、自分次第でいかようにも変えられることを学びました。だったら選択肢がなるべく多い方がおもしろいし、お世話になった人や大切な人を喜ばせてあげられる人生にしたい。

さやかさんの現在(2013.12月)については、

大学を卒業した私は、人生で最も大切な一日である「結婚式」に携わるお仕事に就きました。あのとき、坪田先生に出会うことなく、受験を経てあれほどまでに色々なことに感謝できる経験がなかったなら、慶應で過ごした時間がなかったなら、この仕事には就いていなかったと思います。



さやかさんも言っているように「自分の知らないことを知ってすごく楽しいこと」だし、知ることによって「自分がいる世界を広げる」ことができ、人生の「選択肢が多くなる」。

「知らないことを知る」絶好の場が学校の授業だ。以前にも触れたが、「学校の授業に本気で取り組み、人生を変える」こともできる。

同書は、さやかさんの大学合格への道のりや英語の効率的な学習方法、小論文のおすすめ学習法等が紹介されているので、関心のある人は手に取ってみてはいかがだろうか？

これから夏休み。3年生は受験生としてやるべきことに取り組み、1・2年生は関心のある本を読む等、体と心をレフレッシュして下さい。皆さんと8月11日に会えることを楽しみにしています。